令和6年度第2回 大阪府高齢者医療懇談会 会議概要

1 日時 令和7年3月17日(月) 14時00分～15時00分

2 場所 大阪府後期高齢者医療広域連合(中央大通F Nビル8階) 会議室

3 出席者

(1) 大阪府高齢者医療懇談会委員(8名)

森 詩恵 委員(会長)

(以下50音順)

青山 雅宏 委員、瀬野 陸見 委員、立花 達也 委員、永濱 要 委員、野村 和子 委員、
藤原 雅晴 委員、山本 道也 委員

(2) 事務局

事務局長 村上 光司、事務局次長兼総務企画課長 吉澤 清文、
資格管理課長 岡野 秀隆、給付課長 東 真由美 ほか

4 議題

- (1) 会長・副会長の選出について
- (2) 資格情報のお知らせ発送予定者への通知書の送付について
- (3) 高額療養費制度の見直しについて
- (4) 制度施行状況について
- (5) その他

5 議事の概要

各議題について事務局から説明を行った後、意見交換を行った。

議題(1) 会長・副会長の選出について

- ・会長には、委員の互選により森委員を選出
- ・副会長には、会長の指名により瀬野委員を選出

議題(2) 資格情報のお知らせ発送予定者への通知書の送付について

(委員)

- 令和6年12月1日で新規発行が終了した保険証の有効期限が令和7年7月31日まで

で、今年の8月からはマイナ保険証を持っている人はマイナ保険証を利用し、マイナ保険証を持っていない人は、資格確認書を利用するという2種類の方法があるかと思いますが、今説明のあった紙の資格確認書が今のように8月以降も一律交付する可能性があるということですか。

(事務局)

- そのあたりはまだ決まりきったものではありませんが、マイナ保険証の有無にかかわらず資格確認書を一律発行する可能性があるということです。

(委員)

- それであれば、お知らせはしないということではないでしょうか。

(事務局)

- そのとおりですが、繰り返しになりますが決まった話ではありません。

(委員長)

- まだ決まっていなく、マイナ保険証の有無にかかわらず資格確認書が送られるかもしれないし、送られないかもしれないということです。
- 今説明のあったとおり、1枚目に書いてあるスケジュールで2月上旬から動いて、3月中旬ごろ送付するものが今時点でできていないということで、それがいつできるかは未定であり、できるかもわからない状況であるとの説明であったかと思います。

(事務局)

- 厚生労働省としても資格確認書を送る方針ですが、自分たちの行動をオーソライズするための審議会が3月末にあるので、そこでご了承いただいたら晴れて確定として3月末から4月上旬に国民に対して周知いたしますということかと思います。

議題(3) 高額療養費制度の見直しについて

(委員)

- 意見として、資料2 審議④で少子高齢化というところで、少子のところを改革すれば減ってくるはずで、全体を見たときに政策をもう少し変えたら下がってくるはずです。もう少し広い目線で決めてほしいと思います。

(事務局)

- 被保険者数はこれからも増加の傾向は続き 2045年ぐらいまでは伸びていき、その後は減に

転じてくると総額も減ってくると思います。しかし、当面 10、15、20 年ぐらいは、人数も金額も増えていく見込みです。

- 大阪府の後期高齢者医療の会計では、高額療養費が非常に増えています。必要な方が必要な医療を受けることができるという環境は守っていかなければなりません。私どもの保険者の財政事情をお伝えすると、高額療養費の令和 6 年度予算は当初 8 5 0 億円弱で、令和 5 年度は 6 1 0 億円なので 2 4 0 億円ほど増額していたにもかかわらず、既に予算が足りなくなり先の 2 月議会で 2 5 億円ほど増額したところです。しかし、それでもまだ 5 億円ほど足りず 8 8 0 億円ほどの決算見込み額となっています。数字だけみると高額療養費が急激に増えているのがわかるかと思いますが。
- 保険給付費が 1 兆 3 0 0 0 億円ほどの予算で、来年度は 1 兆 4 0 0 0 億円ほどになります。それで足りるのかという状況です。
- 保険料は 2 か年で算定しますので、初年度は少し余剰がでて、次の年度で不足を 2 か年で補うというのが本来ですが、今年度においては、既にかつかつであり、来年度予算はすごく厳しい状況で、次の保険料率改定には相当な伸びとなるのではないかと考えているところです。
- 今後、国において高額療養費の自己負担額の引き上げの程度や時期の議論がされていくとは思いますが、一方で「出」の方を減らさない限りは、必要な財源を「窓口での負担」や「保険料」で徴収せざるを得ないという保険の構造があります。
- ですから、我々としても健康な生活へのアプローチ・啓発に力を入れていき、できるだけ病院にかからず、一方で、必要な人には医療を受けていただけるよう公的医療保険としての運用が求められているのではと考えます。

(委員)

- ものすごく医療費が伸びているとのことですが、医療か薬代かどちらで伸びているのでしょうか。

(事務局)

- どちらも伸びています。例えば 3 0 0 0 万円かかるような投薬を受けられている方もいらっしゃる、薬剤費も高くなってきており医療費も高くなっている状況です。ただし、これは十分な医療を受けることができる環境があるということで、否定するべきものではありません。

(委員)

- 人口比率でいうと他府県とくらべてどういった状況ですか。

(事務局)

- そこまでの分析はできていませんが、大阪府下でいうと大阪市がとびぬけて金額が多く、こ

れは被保険者が多いからで、同規模でいうと横浜市で医療費がすごく高い市町村となっています。

- 医療費の適正化は、都道府県事務として、それぞれが原因分析し、どのように抑制していくかということが都道府県に課せられています。先日大阪府の会議に出席してきたところですが、生活習慣といくつかの疾病との因果関係について統計学的に分析しており、このようなライフスタイルの人はこのような疾病にかかる傾向にあるといった分析が始まったところです。しかし、それが疾病の原因になっているのか、費用が高いことで病気のリスクが高くなるといったところまでの分析には至っていない状況です。

(委員)

- 私は、府の医療費適正化の会議に参加していて意見も申し上げたところですが、かなり疾病が限られていて、全体としてみるうえではセレクトした疾病で見るとはではなく、外来・入院・在宅をしっかり押さえて総額で比較しないとだめだと思います。

(事務局)

- われわれも特定の疾病に関して医療現場での肌感覚的なものを大切にしてみていくことが大事だと考えます。

(委員)

- 人数が多いから、疾病が多いから、当然高額になるというのは掛け算をしたらわかりますが、私は、他府県でどういった動きをしているのかみることで大阪府の特有なところわかると考えます。
- また、一部の政治家で問題提起もされていますが、海外からきている方が高額療養を目的としてきていることもあり、大阪府では地域的にターゲットになっていると思います。そういうことが存在するのであれば、大阪府から国に対して意見を出すべきだと思いますので、しっかり調べていただき次回の委員会で出していただければと思います。

議題（４）制度施行状況について

(委員)

- 私は、歯医者先生とお付き合いがありますが、歯医者は予防医学と考えるといけないことです。そのような考え方を多くの方が持たないと歯医者にはいかないと思います。こういった情報を多くの方にご説明いただきたいと思います。

(委員)

- 歯の治療より予防が大事というのはある程度は広がってきているかと思います。年齢にもよ

りますが1年間で歯医者に行って口の中を診てもらった人は、この年代では、治療を受けている人を含めて約6割の方は診てもらっているかと思います。ただ、保健事業の健診となると歯周病健診となり、がくっとパーセンテージが下がります。

- 後期高齢の健診の場合は、普通の治療ではなく、舌がちゃんと動くか、唇がちゃんと動くかといった機能面を健診で診ることが認められています。しかし、健診以外に定期的に歯医者に通って診てもらっているという人が一定数いるのが健診に結びついてない点としてあげられるかと思います。
- また、受診率で言うと後期高齢者の被保険者は増えますので、健診の実施件数が前より多くても分母が大きくなることで率が下がる可能性があります。
- われわれは率ではなく何人としてみていきますので、忙しくても受診率に反映していかないということもあります。受診者数でもみていった方がいいかと当事者としては思います。
- 毎年4月ごろ受診案内を被保険者全員に送ってもらっていますが、「奥歯が抜けると全体がダメになる」ということをデータとして打ち出してもらったので、それを被保険者に見ていただき「歯が抜けることを防ぐ方法を考えてもらう」という点で受診いただくのに効果があると思いますので来年度からお願いしています。
- また、年度途中にも未受診者に案内をだしているのですが、今年は年明けに未受診者に案内を出してあまり効果が無かったようです。出す時期によるのかなどを今年度の結果を見てタイミングの確認をしているところです。

議題（5）その他

（委員）

- 広域連合が作成している冊子がとても素晴らしいと思っています。ここにはフレイルについて書いていまして、私は、コロナになってから閉じこもりになることで老人が元気をなくしていることに気が付きました。老人クラブで活動をしているのですが、みんなに元気になってもらうため303（さんまるさん）プログラムというものを行っています。これは、30分で3つのプログラムを行うもので、1つは体操、2つは歌など声を出そう、3つはおしゃべりなど脳トレを行っています。
- この冊子が100部ほど欲しかったので市役所に取りに行くと箱にそのまま置いているだけでした。使うチャンスがなく、どう活用するか説明しないと、このように良いものなのにいきわたっていないと思います。作ったのなら「このように活用してください」といったように伝えていってほしいです。

（事務局）

- 皆さんに見てもらうために作っているものですので、見ていただけていないのであれば非常にもったいないことです。今後はどのように周知していくかということも含めまして、より良いものにしていきたいと考えております。

(委員)

- こういった冊子は、市の方に送られているようですが、社会福祉協議会など現場に近い窓口
に送らないといけないと思います。もう少し送り先を考えてもらえたらと思います。

(委員)

- これを配るにあたっては、表彰するなどインセンティブを与えるユニークな取り組みなどし
てはどうでしょうか。

以上